

熊本大学国際化推進センターニュース

The News Letter of the Center for Globalization, Kumamoto University

第9回熊本大学フォーラム(上海)及び 熊本上海事務所オープニングセレモニーを開催しました。

第9回熊本大学フォーラム(上海)

熊本大学は、大学の国際的なプレゼンスの向上、国際交流ネットワークの拡充及び人材交流の促進を図るため、「熊本大学フォーラム」を毎年国内外において開催しています。

1月10日、第9回熊本大学フォーラム(上海)を中国・上海市で開催しました。熊本県、熊本市及び熊本大学の3機関共同による熊本上海事務所の開設を契機として、熊本大学の国際戦略上重要な海外拠点である中国の交流協定校等を対象に、熊本大学の最近の教育研究活動を情報発信するとともに、中国交流協定校等及び熊本大学留学経験者等から熊本と中国との交流促進に向けた提言等を行う場としました。

フォーラムは、谷口学長の開会挨拶、在上海日本国総領事館の前川光広報文化センター長の来賓祝辞で始まりました。山中理事、原田理事による熊本大学の教育・研究の概要説明に続いて、千鳥大学院社会文化科学研究科副研究科長、西山大学院自然科学研究科長、竹屋大学院生命科学研究部長及び西村大学院医学教育部副教育部長が人文社会科学系、自然科学系及び生命科学系の各分野における教育・研究について紹介しました。次に、上海師範大学の陸建非党委書記及び山東大学の樊麗明副学長が熊本大学との交流の意義・課題・展望について講演を行いました。また、熊本大学が立地する地域の魅力をPRするため、熊本県の井手口真帆氏、熊本市の北添友子氏



熊本大学フォーラムの記念撮影

が熊本の紹介を行い、国際化推進センター・陳教授が高等教育コンソーシアム熊本の紹介を行いました。最後に、5名の熊本大学留学経験者等が熊本での留学生活等について発表を行いました。

また、フォーラムと併行して、中国の交流協定校等22校の代表者と谷口学長等との懇談会、在上海熊本大学OBの交流会、熊本大学及び高等教育コンソーシアムを紹介するブース、熊本大学の学部学科を紹介するパネル展示等の多彩なイベントを行いました。

フォーラムをはじめとする一連のイベントには、日中の大学等の教職員、学生、熊本大学OB、行政及び企業関係者約170名が参加し、交流を深めました。

また、同日午後6時30分から上海国際機場賓館にてレセプションが行われ、熊本県知事、熊本市長、熊本大学長、熊本県議会代表者、熊本市議会代表者、上海市政府関係者、在上海日本国総領事館関係者及び上海市熊本県人会関係者等約200名が参加しました。

熊本上海事務所のスタッフは、熊本県職員1名、熊本市職員1名及び現地職員3名で、熊本県内企業の中国進出支援及び中国から熊本への観光客の誘致等のほか、熊本大学と中国の教育・研究機関の交流活性化、日本留学を希望する学生への効果的な情報提供及び中国の熊本大学OBネットワーク強化等の支援を業務内容としています。

熊本上海事務所 オープニングセレモニー



熊本上海事務所テープカットの様子(左から2番目が谷口学長)

熊本上海事務所は、熊本県、熊本市及び熊本大学の3機関が共同で上海市内梅龍鎮広場(上海伊勢丹百貨店入居ビル)の15階に設置しました。

1月11日午前11時から熊本上海事務所で開催式を行い、熊本県知事、熊本市長、熊本県議会議長、熊本市議会議長及び社団法人熊本県貿易協会会長と共に、谷口学長がテープカットを行いました。

上海の大学表敬訪問

上海の大学との新たな協力関係を模索するため、上海杉達大学(1月11日)及び上海大学(1月12日)を表敬訪問しました。杉達大学は中国で初めての私立大学で、1992年に創立されました。また、上海大学は学生数約5万人を誇る有力な総合大学で、中国政府の重点大学の1つに指定されています。

熊本大学フォーラム、熊本上海事務所の開所及びその他関連行事を通じて、今後、熊本大学と中国とのさらなる交流拡大が期待されます。

Kumamoto University Global Academic Excellence Seminar開催(中国、ベトナム、台湾)

本学の大学間交流協定校である深圳大学(中国)、ホーチミン工科大学(ベトナム)及び南台科技大学(台湾)にて、「Kumamoto University Global Academic Excellence Seminar」を開催しました。

本セミナーは、海外の交流協定校で本学の教育・研究及び国際的な人材交流に関する取り組みをセミナー形式で紹介することにより、研究交流の活発化と日本への留学を希望する留学生への効果的な情報提供を目的として、本年度から新たに実施したものです。

10月31日に開催した深圳大学でのセミナーでは、本学の研究を紹介するワークショップを開催し、教員・学生を交えた活発な意見交換や情報交換が行われました。続いて開催した学生を主対象とした大学説明会には、日本語を学ぶ学生が多く参加しました。

11月9日に開催したホーチミン工科大学でのセミナーでは、特に、本学における特色ある研究及び大学院生の研究室での活動状況を紹介しました。研究者及び学生約150名が参加しました。

また、本学OBでベトナムのハノイ建設大学に勤務する Leu Tho Bach 准教授から熊本滞在体験の紹介があり、参加者が熊本を身近に感じるきっかけになりました。

11月16日に開催した南台科技大学でのセミナーでは、本学の各学部及び大学院の紹介、競争的資金による代表的な研究紹介、熊本大学サマープログラム及び本学の留学生対応(授業料、宿舍、留学生のイベント、生活費など)等について説明を行いました。日本語学科学生を含む学部学生及び大学院生が参加しました。

各セミナーの終了後、本学への留学や熊本での生活に関する質問が参加者から積極的に寄せられ、本セミナー及び本学への関心の高さがうかがえました。

今回のセミナーをおこなったことにより、交換留学及び学位取得を目指して熊本を訪れる学生が今後ますます増えることが期待されます。



ホーチミン工科大学でのセミナーの様子

平成23年度 熊本大学留学生交流パーティーを開催

12月21日、本学工学部百周年記念館において、留学生交流パーティーを開催しました。熊本大学では、異なる生活環境の中で勉学・研究に励んでいる留学生を励ますと共に、留学生と指導教員・チューター及び日頃からお世話になっている学外関係者が一堂に会し、相互の交流と親睦を深める目的で、本交流パーティーを毎年実施しています。

当日は谷口学長による開会の挨拶、中国留学生会会長による挨拶に続き古川副学長による乾杯の音頭を皮切りに、参加した本学留学生、指導教員、チューター及び学外関係者が交流を楽しみました。

また、留学生パフォーマンスとして8組の留学生グループによる伝統的な音楽の演奏・歌やダンス等が披露されました。発表内容については、投票の結果、最も得票数の多かったグループに、谷口学長から留学生パフォーマンス大賞が贈られました。その他、熊本大学国際交流支援者会による抽選会等のイベントも行われ、会場は約400人の参加者で大いに賑わいました。



谷口学長と参加した留学生

外国人留学生のための就職説明会

県内では初めての事業として熊本県主催、高等教育コンソーシアム熊本共催により、外国人留学生のための就職説明会が12月18日に本学工学部百周年記念館において開催されました。

本学からは大学院生をはじめ56名の留学生が参加し、全体の参加者は92名でした。学生からは、「熊本県内の企業への理解が深まった。このような説明会は留学生にとって大切な機会であり、就職に関する情報が得られてよかった。」などの好評を得ました。

今回、県内の製造関連をはじめ15社の企業が参加しましたが、参加企業からも「留学生を海外展開に活用したい。このような機会はないか」、「留学生が県内企業に就職することは、企業による留学生社員を活用した海外展開や企業内のグローバル化促進にとって有効。」などと評価も高く、次年度以降も説明会の開催が望まれます。



熱心に説明を聞く留学生

長崎被爆体験講話

11月19日、本学工学部2号館において、熊本留学生交流推進会議と長崎県の主催で長崎被爆体験講話を行いました。

この事業は、多くの人に平和の尊さを知ってもらうためのもので、一般の方や留学生、高校生など約40名が参加しました。

はじめに原子爆弾に関する映画を視聴し、その後長崎で原子爆弾の被害を受けた深堀讓治氏に体験談を講演頂きました。映画、講演共に日本語だけでなく、留学生にも理解しやすいよう英語による通訳あるいは資料等を用いて行われ、講演の後の質疑応答では、留学生からも活発な質問がありました。また、会場外に展示されたパネルを自分のカメラに収めている姿も多数見られました。



講演の様子

平成23年度海外留学成果発表会

12月20日、本学くすの木会館にて平成23年度海外留学成果発表会が開催されました。

本発表会は二部構成で、内容は、第一部が交換留学体験報告、第二部が短期セミナー体験報告でした。

第一部では、熊本大学と学生交流協定を締結している海外の大学へ交換留学生として派遣され、今年帰国した学生の成果発表が留学先の言語で行われました。続いて、第二部は、夏期あるいは春期に2週間~1ヶ月程度の期間実施している海外語学セミナーに参加した学生達による体験報告がありました。

発表者の学生達は、それぞれが海外で学んだ事について写真等を使って堂々と発表していました。谷口学長からは「今回の経験を生かして、今後国際人として世界で活躍していくことを期待します。」と激励がありました。

会場には、留学に興味のある、または今後留学を検討している学生達約40名の参加があり、先輩達の話に熱心に耳を傾けていました。



学生による発表

フランス・サンティエヌ国立高等鉱業学校来学

10月25日、フランスのサンティエヌ国立高等鉱業学校のMichel Cournil国際担当副学長とWoo-Suck Han准教授が来学しました。

Michel Cournil副学長らは、谷口学長を表敬訪問し、研究交流・学生交流について意見交換を行いました。

また、大学院自然科学研究科を訪れ、西山研究科長らと意見交換を行うとともに、いくつかの研究室を訪問しました。

サンティエヌ国立高等鉱業学校はフランスの工業系高等教育機関の中でもトップクラスに入る名門校(いわゆるグランゼコール)で、マテリアル、環境、情報、電子、生命科学など幅広い分野で教育・研究を行っています。

学生の1割が日本語を学ぶなど、同校の日本への関心は高く、熊本大学との間でも有意義な研究・学生交流が始まることが期待されます。



左から Woo-Suck Han 准教授、Michel Cournil 副学長、谷口学長、古川副学長

モンタナ州立大学副学長が谷口学長を表敬訪問

10月26日、本学の協定校であるモンタナ州立大学(アメリカ)よりNorman Peterson副学長及び国際担当スタッフが本学谷口学長を表敬訪問しました。

モンタナ州立大学は1987年に協定を締結して以来20年以上にわたり交流を続けており、特に学生の相互交流を継続して行っています。

懇談では、谷口学長とNorman Peterson 副学長が、教員交流や学生交流における新たなプログラムの可能性等について意見交換し、表敬は和やかに終了しました。



Norman Peterson 副学長と谷口学長

四川大学錦江学院訪問団が谷口学長を表敬訪問

12月19日、本学の大学間交流協定校である四川大学(中国)の錦江学院から訪問団(9名)が本学谷口学長を表敬訪問しました。

懇談では教員の研究交流における様々な可能性について活発な意見交換を行いました。また、学長表敬終了後に研究室見学(物質生命学科及び建築学科)を行い、訪問団は、本学教員による研究の説明に熱心に耳を傾けていました。



学長表敬

上海観光視察団が熊本大学を訪問

本学は、11月28日に中国上海観光視察団7名の訪問を受け、本学の国際化、特に中国における国際展開の取組等について情報交換を行いました。熊本県・熊本市・熊本大学の3機関共同による上海事務所が開設されるのを機に、熊本県から招かれた視察団が学長表敬を行ったもので、メンバーには、上海の新聞記者・著名なジャーナリストも含まれておりました。

当日は、谷口学長、山中理事ら本学幹部から、本学の沿革、教育・研究・社会貢献・国際化の現況についての紹介がありました。また、近代日本の政治家・文豪を輩出した第五高等学校の伝統を本学が受け継いでいることや、熊本の自然環境・地理的条件・観光資源の豊富さや長年にわたる中国上海との人的・文化的交流活動について意見が交わされました。



情報交換会出席者の記念撮影

中国・山東大学の国際共同教育調査団が本学を訪問

本学と大学間交流協定を締結している中国・山東大学の哲学学院劉傑院長ら7名の調査団が12月12日、本学を訪問しました。

調査団は、山東大学と本学のカリキュラム、単位認定方法を比較して、より実質的な大学間の交流を推進するために本学を訪問したもので、大熊文学部長、山崎法学部長及び里中工学部長ら学部幹部職員から学生便覧、シラバス等に基づき本学の教育プログラムや英語による教育への取組み状況について説明を受けた後、国際共同教育による学生の人材養成についての活発な意見交換が行われました。

午後からは、工学部との間で協議を行っている秋季編入入学についても、学生の募集や留学受け入れ等に当たっての情報交換を行いました。

調査の後、一行は、五高記念館を視察し、国指定重要文化財の赤煉瓦の建物の構造や外観、施設利用の方法等について、スタッフの説明に熱心に耳を傾けていました。



調査団との記念撮影

平成23年度「教育の国際化推進のための海外FD研修」報告会を実施

12月21日、本学の国際化推進運営会議および国際化推進センター運営委員会の委員等を対象として、海外FD研修後の報告会を開催しました。本研修は、本学の国際化推進を積極的に図るための取組として平成22年度より実施しているもので、今回は教員5名がアメリカのカリフォルニア州立大学フラトン校にて、英語による教授法・コミュニケーション力の向上を目的とした約2週間のプログラムを受講しました。

報告会では、古川副学長による開会挨拶に続き、派遣教員により研修の内容や成果等について発表が行われました。



発表の様子

谷口学長、韓国・KAIST主催の「第4回国際学長フォーラム」に出席

本学と大学間交流協定を締結しているKAIST(韓国科学技術院)主催の「2011世界的研究大学国際学長フォーラム」が11月8日、韓国・ソウルにて開催されました。

本フォーラムには、27カ国から44機関の学長・副学長等が参加し、講演及び活発な意見交換が行われました。

本学からは、谷口学長が出席し、「Role and Strategies of KU in Borderless and Creative Education to Produce World Leaders」というテーマで講演を行いました。

翌11月9日は、清州市の忠北大学校の Kim Seung-Taik 総長を訪問し、交流協定締結後の両大学の実質的な交流の在り方等について意見交換を行い、今後さらに友好関係を強めていくことで合意しました。



フォーラム参加者の記念撮影

国際化推進センターの新しい教員の紹介

平成23年11月1日、国際化推進センター国際交流支援部門の新しい教授として、陳強教授が着任しました。



「第7回環黄海学長フォーラム」に参加

第7回環黄海産学官連携学(総)長フォーラムが、11月16日、17日に韓国・大田広域市で開催されました。

本フォーラムは、第11回環黄海経済・技術交流会議のプログラムのひとつとして開催されたもので、日本(九州)、中国、韓国の3国から、25大学の学長・副学長等が参加し、各大学における取組事例の紹介や活発な意見交換が行われました。

16日は、「セッションⅠ：環黄海における産学連携」及び「セッションⅡ：環黄海における共同人材育成」テーマとした2つのセッションが行われ、本学からは、古川副学長(国際交流担当)がセッションⅡの日本側代表として、「ICAST and its Aim to Foster the Talented who Contribute to the Advancement of Science and Technology」というテーマで討論を行いました。

翌日17日は、第11回環黄海経済・技術交流会議本会議で行われた、開催校の韓国国立ハンバッド大学校の Lee Won Mook 総長による総括報告において、本フォーラムの有意義な成果が報告されました。



発表を行う古川副学長

大学間・部局間交流協定(平成23年10月～12月)締結分

大学間/部局間		大学名	国名	学術/学生
大学間		フィリピン大学ディリマン校 University of the Philippines, Diliman	フィリピン共和国	学生
		亞洲大学 Ajou University	大韓民国	学術/学生
		華東政法大学 East China University of Political Science and Law	中華人民共和国	学術/学生
部局間	文学部 大学院社会文化科学研究科	長榮大学人文社会学院 Chang Jung Christian University, College of Humanities and Social Sciences	台湾	学術/学生
	理学部 工学部 大学院自然科学研究科	高神大学校一般大学院および自然科学大学 Kosin University, Graduate School, College of Natural Science	大韓民国	学術/学生
	工学部 大学院自然科学研究科	賀州学院 Hezhou University	中華人民共和国	学術/学生
	工学部 大学院自然科学研究科	ジョセフフーリエ(グルノーブル第一)大学 University Joseph Fourier - Grenoble I, Polytech Grenoble and L' ufr Phitem	フランス共和国	学術/学生
	大学院生命科学研究部 大学院保健学教育部	カリフォルニア大学サンフランシスコ校看護大学院 University of California, San Francisco, School of Nursing	アメリカ合衆国	学術

12月には、本学工学部および大学院自然科学研究科において2件の調印式を執り行いました。

12月9日、ジョセフフーリエ(グルノーブル第一)大学(フランス)との間において、Eric Beaugnon 副学長、総合科学技術共同教育センター(GJEC)の集中講義の講師としてもお招きしていたGioacchino Viggiani 教授同席のもと調印式を実施しました。同大学とはこれまで、特にX-Earth Centerを中心に交流を活発に行ってきたおり、その長年の実績から今回の交流協定締結が実現しました。当日は、谷口学長への表敬訪問もあり、今後の交流について具体的な意見交換がなされました。

また12月20日は、本学に研究員として在籍していたこともある賀州学院(中国)の解慶林院長をはじめ4名の訪問団が来学しました。昨年11月、同学院の潘立文党委書記一行が熊本大学を公式訪問し、谷口学長、古川副学長

らと面談した際に交流協定締結の意志が確認され、その準備が整ったことから今回の訪問となりました。調印式に先立ち行われた意見交換では、教官の交流を手始めに、本学サマープログラムへの受入など、積極的な学生交流へつなげていくことが確認されました。

これら2大学と本学との間において、今後さらなる交流の場が広がっていくことを期待します。



調印式(ジョセフフーリエ(グルノーブル第一)大学)



記念撮影(賀州学院)